

インドネシアにおけるビジネスamus

1. 自動車：日本メーカーの車がよく売れる。多くが貿易と関係。
2. 造船：クルーズ船で注目される？
3. スマート城：日本では良好

ASEAN：これから成長していくと考えられるアジアの国々。

カントリーリスク：その国に進出していく上で障壁となる要因。

造船：インドネシアにおいて注目されている！

ASEANの多様性：国ごとに政治形態、宗教、人種、産業が全く異なる。

カントリーリスク：国ごとのビジネスにおけるリスク。政治、人種、災害面など要因からなる。

インドネシアの有望産業：自動車と造船、航空機産業。
以前は繊維産業が重要視されていた。

○カントリー・リスク…ビジネスの課題の一つ。との国の政治・社会・経済のさまざまな問題

○オペレーション…その国で実際にビジネスを行うにあたって課題となることが予想される生産・販売、雇用・労働の人権、税務・通関、法務・規制などの方面の課題。

○セキュリティ…との国の治安悪化、感染症、安全管理、セキュリティなどのリスク。

カントリー・リスク：何かあ、丁寧さに政府が保障してくれないと
ラオス・ミャンマーでは低い。

造船会社：インドネシア政府は造船業の振興を目指している。

セキュリティ…治安、感染症、情報セキュリティのもんじーたるが弱点。

① ASEAN…制度的にはEUのほうを範例例に取りつけるのが、国ごとにかなりの幅がある。
運営が複雑。ビジネスで進出する際には、言語・宗教・民族・文化・諸々。
カントリー・リスクなど吟味して、進出国を決めていく必要がある。

② カントリー・リスク…ビジネス上の課題、リスクのひとつとなり。政治・經濟・社会とい、とにかく多。

③ インドネシアのビジネス…国が行う“認定”と“登録”がある。おもなものは、
銀行などは“認定”を受けると“登録”をする。

- カントリーリスク … 進出先の国における考え方のリスク。政治的情報問題、環境問題、地域格差など。
- セキュリティリスク … 進出先の国における安全保障にかかるリスクについて。治安問題など。
- サプライチェーン … 物流システムをある一つの企業に限定することなく、複数企業間で物流システムを構築すること。

- ASEANでのビジネスのメリット：消費拡大、インフラ未整備であることは多いものの、インフラ事業のチャンスがある。
- インドネシアでのビジネスのメリット：内需大きく、人口も多い。成長の期待大。
- インドネシアでのビジネスのデメリット：汚職、経済格差、インフラ整備等、資金の高さ(つづり)、宗教的配慮せねばならぬ。

多種多様な背景：ASEANといえど各国それぞれに強み・リスクがあり、ईस्युの特徴をふまえることが必要

拡大する消費市場：インドネシアは世界4位の人口を有し、国内需要も盛んである。

自動車産業：国内の生産台数をほぼ同じ台数が販売されており、人口と購買力のある国というインドネシアのひとつ特徴をあらわしているといえる。

・カントリーリスク

輸出保護ペレットで表される。どの国と交易するかのリスクのこと。対日本やオランダは高いが、ラオスやミャンマーは高く設定されている。政治・経済・社会面で細かい分類でも。

・インドネシアのセミナー

ASEAN最大の消費市場でもある。内需が好調で直接投資も活発であるため消費市場での大きな魅力を持つ。自動車や造船がさかん。

・ユドヨー政権

インドネシアは低位中所得国から高位中所得国へ転換された。

ビジネス上のリスクの分類

①カントリーリスク：政治・社会・経済のリスク。②オペレーションリスク：生産・販売・労働/人材、債務・通関、法務・規制 ③セキュリティリスク：治安・疾病など。

インドネシアの有望な産業

自動車

日系メーカーのシェアは80%を越える。低賃金での労働を期待して進出していくことが難しくなっている。しかし、大型市場で人口ボーストスが来るに期待。

造船

近年になって話題になって来た。インドネシアは、造船業の振興を目指している。

ASEAN… ASEANは東南アジア9カ国を指すが、それぞれ異なる背景を持つ。ビジネスの視点で見れば、政治・社会・経済・雇用・法制度・治安・セキュリティなど様々な視点から考えるのが大切である（カントリーリスク、オペレーションリスク、セキュリティリスク）

インドネシア… ビジネス視点でインドネシアを見ると、世界4位の人口を背景とした市場拡大する輸出、親日国など成長を続ける魅力の国。一方で、も資源供給の構造、都市・地図・民族・宗教への配慮、法制度といったリスクをともなう。

政権… 各政権ごとに産業振興に対する方針が違う。政権の変遷が産業に大きな影響を与える。例えは、航空機産業は過度の優遇が政権交代時に裏目に出る事となった。

セキュリティリスク：政治動向、新規同様変化(AIDS)、従業員の健康管理、情報セキュリティ

カントリーリスク：政治、新政権下の政治的不安性、社会

オペレーションリスク：生産・販売、雇用、人材。

カントリーリスク … ビジネス上の課題の中で政治的、マクロ経済的、社会的
(外部要因) リスクのこと。具体的には、政治システムの安定度合いや為替リスク、インフレ、また所得格差などがある。

オペレーションリスク … 実際に進出に仕事をする上で生じるリスク。生産、販売時に生じる品質管理の問題であり、労働組合の問題やまたその国の税制度や法規制もオペレーションリスクに含まれる。

セキュリティリスク … 治安、伝染病、情勢セキュリティ等の問題。

△全て進出日系企業から見たリスクである。

ビジネス・リスク - 海外に進出する際に評価が、必要となる、課題は
カントリー、オペレーション、セキュリティの3つに大別される。

・日本との有望産業：自動車、造船、航空機産業は日本对中国で可能性が大きい。

・ジョコ大統領：今後の中国ビジネスは「他のリテラシー」と政策に大きく影響される。

カントリーリスク：海外投資・貿易を行う時に、相手国の政治、経済・社会環境などの変化により、収益を損なう危険の度合い。ASEANの中で日本・シンガポールは高め、ラオス・ミャンマーが「高い」とされる。

インデネシアのオペレーションリスク：労働賃金も上がってきており、労働法も整っておりと、労働者を保護する制度が整えられています。

自動車産業：インドネシアの有望産業であり、生産台数・販売台数共に10万台を誇り、国内需要も大きくなっています。

・ ASEAN … 言語的、宗教的、資金、政治体制の違いで多様であり、ひとつひとつにあります。

・ 「リスク…カントリー、オペレーションリスクなどが挙げられ、上記の通り、国ごとの多様性がある。しかし、これらはこれからビジネスをする場合も。

・ インドネシアの造船産業 … 史上4回時代にさかのばる歴史。国内の需要が大きい。

・ 有望産業 … 生産台数、販売台数がほぼ同じ。(車)
(車) 日本メーカーのシェアが大きい。(インドネシア)

・ 日系企業 … 日系企業にとって ASEAN諸国は有望な市場であると同時に、カントリー、オペレーションリスクなどの面があり、扱いづらいところ。

・ 造船 … 国内は国営PALのみしか造船場がない。
需要の高さについてはこれまでない。

カナリー・イスラ：ビジネス上の課題、リスクの1つであり、その国の政治や社会、経済の状況は、
②海外投融資の本資金 貸付金が回収不能となるリスクなど。

インドネシア：ASEAN最大の消費市場であり、最近では安価な生産基地として多くの消費
市場との魅力の方が大きくなっています。しかし、ビジネス環境の悪化で
事業コストは増大しています。

ユドリ政権：低位中所得国から高位中所得国へとの政権交代が起こっています。日本
よりの政治的支援があります。

ASEAN：一口に ASEANと言って、ビジネス進出や直接投資
を考える際には、ASEAN内の多様性を考慮して
判断を下す必要がある。

スルト政権：現在のインドネシアに与える影響は急速に強まる

・スリ-シド：内戦終結中。被虐はあまりありませんが、

人口ボーナス
現在人口が約2億4000万人であり、年齢構造
的に人口ボーナスによる利益が見込めるところ
PALE・スマラフエシ島や、フィリピンの島に拠点をと
印度ネシア造船の国営企業、侵入政策による犯罪が頻繁
政権の変遷

スルト→ユドリ→ヨコ・ウドリと政権が変わったときに

ASEANのビジネスとリスク…チキンはあれど、ボーテンシャルが大きい。
FTA（自由貿易協定）、ASEAN、TPP、EUなどは現在でも大きな課題となる。

日本との関係…歴史上親日国であることから、日本における極めて重要な市場。
日本車（シエラ）がインドネシアで80~90%を占める人気。

インドネシア、航空機産業…カコス（インドネシア）の国営航空機メーカーが内閣の仲介により。
現在三菱重工がMRJを開発し、来春から使用される
ことから今後興味深い。

カリマ・リスナ：この国においてビジネスをするときに最もリスクとなるのが行政手続き
保障してくれるか、社会主義の国ではない。

ビジネス（ヤス）：豊富な内需があるASEANに焦点を当て、多くの企業が参入している。確定として（JCI）等々と参入するシステム

有望産業：国として力を入れて、発展させようとしている産業。
スマート（IT）技術、種々の有望産業がある。

オペレーター（リスナ）：日本から職員を派遣して日本語で運用するためにかかるリスク。その他の特徴的な特徴やヤフラー（IT）等についてよく必要な要素がある。

自動車：「日本車（スマート）」と自動車産業は進出する上でXリットル以上。内需が多いこと、特に日本車（スマート）が少ない、足りないところは国内産業でない方が多い。

人口統計学…若年人口の増加に伴い生じる雇用コスト削減や需要増大などのチャンス。
東南アジアでは、比較的豊かな地域は少子高齢化が進む人口ボーダーが消滅しつつある。スマート（IT）等の普及率。

- ・カントリーリスク
政治、社会、経済的面でのリスク
- ・オペレーションリスク
法、税、生産、販売、雇用面でのリスク
- ・セキュリティーリスク
治安、感染症、情報セキュリティ、従業員の安全管理面でのリスク、

- ・カントリーリスク - この国の状態や体制によるリスク（政治体制や経済など）
インドネシアでは汚職や通貨安などがある
- ・オペレーションリスク：ビジネスを実際に運用する時に伴うリスク
(雇用・労働やこの国の宗教・文化・慣習への配慮など)
- ・人口ボーナス - 人口構造上、労働力人口が相対的に増加する割合が
急速的な経済成長を可能とならず

カントリーリスク… ある国でビジネスを行う際に生じるリスク。この国の政治的安定、社会問題、経済状況などの外部要因によるもの。

オペレーションリスク… 販売、雇用、税務、法務などに関するリスク

セキュリティーリスク… 治安、情報セキュリティに関するリスク。

サプライチェーン：原料の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスのつながりのこと。

カントリーリスク：海外投融资や貿易を行う際、対象国。政治・経済・社会環境の変化のために、個別事業相手が持つ商業リスクとは無関係に収益を損なう危険度合いのこと。

オペレーションリスク：全ての企業に存在する、通常、業務活動に係るリスクの総称。

オペレーションリスク：企業が操業する際のリスク（人件費など）

ASEAN諸国の多様性：言語・文化・宗教など多種多様で、それぞれの国でナショナルリスクが大きく異なる。

インドネシアの航空産業：スハルト政権時代に航空機産業が発達したが、政権が倒れてダメージ。

- ASEAN

東南アジア諸国連合のこと。ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムが加盟している。

- ビジネス上の課題

3つのリスクがある。カントリーリスク（外部要因）、オペレーションリスク、セキュリティーリスクである。

- インドネシア

ASEAN最大の消費市場あり、有数の親日国家でもある。有望産業として自動車と造船、航空機産業がある。

ASEAN…拡大する消費市場、経済統合の進展、インフラ整備によるビジネスチャンスなど、チャンスにあふれた市場である。9か国ある。

オペレーショナルリスク…生産販売を行う上でともだうリスクのこと。タイやマレーシアは3法の整備運用が合理的であるのにに対して、カンボジアやミャンマーは3法整備されておらずなど、国ごとに改善すべき問題は様々である。

カントリーリスク…スカル、スハル、政権交代はたからに問題である。統一(イドネシア) 合収支の悪化で通貨安になり、日本企業にも影響が出ている。

カントリーリスク：政治、社会、経済に関するリスク。

フィリピン：英語が“国内で”一番伝わるのと、これから発展する国。

イドネシア：ASEAN最大の消費市場。

○有望産業は自動車。

-人口ボーナスによる働き力がまだまだある。

○雇用、労働の費用が“あがってきていくのが”、すこしきにわか...

労働力は今後も減っていくため、安定すると思われる。長成が“みこめそ。

○法の制度：運用する際にtransparencyがなく、

あまりまた“ひょうやか”でない現状がある。

ビジネス上の課題分類：ビジネスには、カントリー・リスク、オペレーション・リスク、セキュリティ・リスクがあります。カントリー・リスクは政治・社会・経済の面から考えることになります。

ASEAN

：インドネシアはASEANの中で最大の消費市場。
安い生産基地としてよりも消費市場としての魅力。

有望産業

：国が力をあげてとりこんでいる産業のこと。
自動車、造船などがあげられます。

ASEAN主要国の経済情況

発展途上国との中国经济が減速し始めたのにに対し、ASEAN諸国は今後更に市場、労働賃金の低さなどに注目を集め重要な経済である。

政治

シンガポール、マレーシアなどは割と安定しているからなどが食いまだい、不安定な情勢が続く。

治安とビジネス環境

シンガポールなどは十分な整備と治安が確保されるが、カンボジア、ミャンマーなどでは低所得者層などと政治情勢などの不安定によりまた不十分な点がある。

ASEAN：多様な背景を持つ国の集まり。現在、EUのような統一市場になりつつある

人口7億人：労働力人口が増えること。タイはもう33歳を終わってしょうが、インドネシアにはあと15年くらいこの傾向が見うかると予想されている。

モーリタニア：過渡や感染症などの安全に陥りリスク。

日本人学校の崩壊も高めています。

モーリタニア

カントリーリスク … 国家やその地域の、治政や伝染病、外交などでのリスク。

インドネシア … 世界第四位の人口、アフリカの東部の長年に亘る長い国土を持ち、

最近では消費の市場として注目され、新親日のアドバンテージがある。

インドネシアの産業 … 自動車は日系メーカーとの提携もある。造船は国家レベルで押進めているが、かつて同じく押進めていた航空機の製造はすでに失敗している。

<カントリーリスク>

シンガポールは日本と同じレベルで安全度が高いが、ラオスやミャンマーは日本人学校も整っておらず、危険度が高い。

<インドネシア>

親日的で、ビジネスもしやすい。イスラム教の国。

<造船>

インドネシア政府は造船業の振興を目指している。

カナダ・オーストラリア … 輸出依存度が高い国とのリスク低 日本・シナがオーストラリアを基盤

フィリピン … 爆発を防ぐため規制強化、国内成長率が伸び悩む

ラオス … 農耕立国である國

- ・カントリー・リスク — 政治や社会~~や~~システムのリスク
自然災害、所得格差、インフレなど。
- ・オペレーション・リスク — ビジネス上の課題、リスク
品質管理、資金、税制など。
- ・セキュリティ・リスク — 治安、安全管理、情報セキュリティ — サイバーリスク

・ASEAN … カントリー・リスク、オペレーション・リスク、セキュリティ・リスクの面でそれぞれ特徴が異なる国が集まっている。

(インドネシア)

・航空機産業 … 政府のトラブルで失敗。

・造船業 … 現地では、自動車が多く日本に関係も深くが、船も使用される機会が多く、今後の可能性がある。

・カントリー・リスク : 東南アジア各国により抱えるリスクが違う。
労働賃金の観点が最もまじえて、どの国に進出するべきか。

・仁義アセアン整備 : 仁義アセアンが不十分な国、ラオス、カンボジア、ミャンマー

・(インドネシア)

船舶代理業：代理契約のことで、支拂とよく聞ぐが、それとは別に他のものもある。
支拂。

（ドライ・カーゴ）・生産工場の増加に伴い、市場の拡大が進む。有数の親日国

船舶運送……日本の一大事業。現在はIMLのような会社が盛んな。

1月11日～12日 … 相手国が持つ政治等。リスク

1月12日～13日～14日 … 通常。業務、問題のリスク

2月11日～12日